

経営分析レポート

第20期

株式会社牛浜商事

自 平成 20年 4月 1日
至 平成 21年 3月 31日

あいう会計事務所

目 次

総 合	1	経営資本対営業利益率
	2	経営資本回転率
	3	売上高対営業利益率
	4	自己資本対経常利益率
	5	総資本対経常利益率
財 務	6	自己資本対固定資産比率
	7	固定長期適合率
	8	流動比率
	9	当座比率
	10	総資本対自己資本比率
	11	売上高対支払利息比率
	12	固定資産回転率
	13	受取勘定回転率
	14	支払勘定回転率

目 次

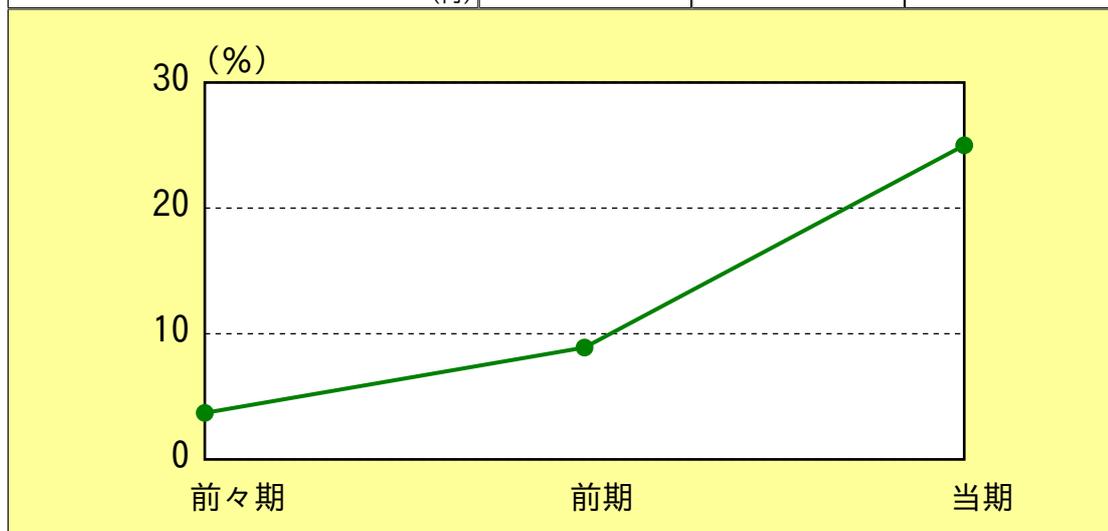
生産販売	15	従業員一人当り年間売上高
	16	従業員一人当り年間加工高
	17	加工高比率
	18	加工高対人件費比率
	19	棚卸資産回転率
	20	売上高対総利益率
	21	売上高対経常利益率
	22	販売・管理費比率
	23	売り場3.3㎡当り売上高
労務	24	売上高対人件費比率
	25	従業員一人当り月平均人件費
	26	人件費対福利厚生費比率
	27	従業員一人当り機械装備額

1. 経営資本対営業利益率

$$\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本}} \times 100$$

事業活動に参加している資本と、そこから生まれた利益を比した本来的な事業活動での収益性を示す指標

		前々期	前期	当期
経営資本対営業利益率 (%)		3.7	8.9	25.0
対平均 (%)	1.1	↑	↑	↑
営業利益 (円)		636	1,744	21,403
経営資本 (円)		17,172	19,597	85,383



👉 ポイント

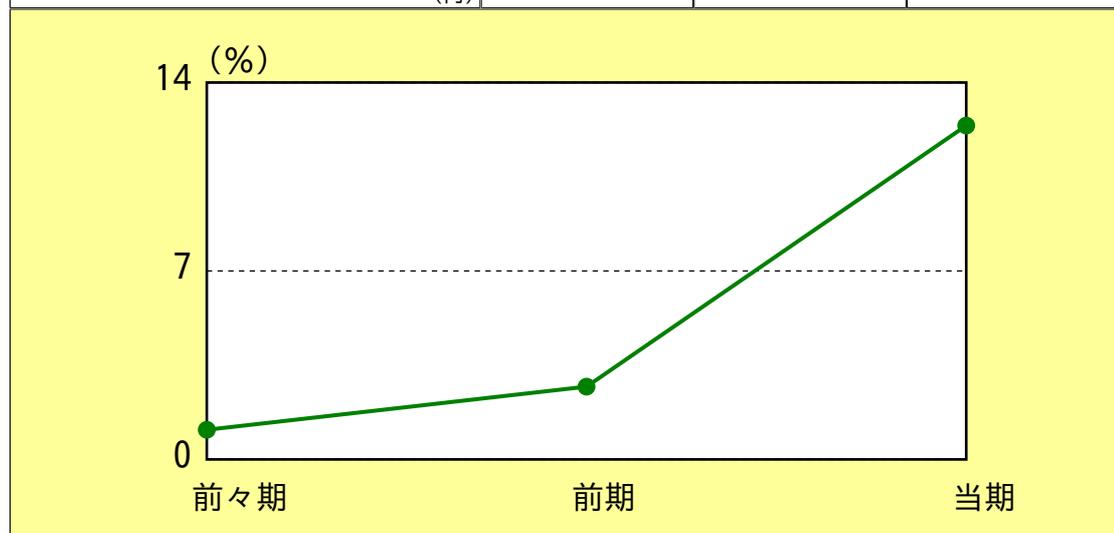
- 良：経営資本の額が小さいか、営業利益が大きい。
- 否：経営資本の額が大きいか、営業利益が少ないかによる。

3. 売上高対営業利益率

$$\frac{\text{営業利益}}{\text{純売上高}} \times 100$$

企業が提供する商品またはサービスの内容と販売活動の成果を合せた、企業の競争力を示す指標

		前々期	前期	当期
売上高対営業利益率 (%)		1.1	2.7	12.4
対平均 (%)	0.5	↑	↑	↑
営業利益 (円)		636	1,744	21,403
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205



👉 ポイント

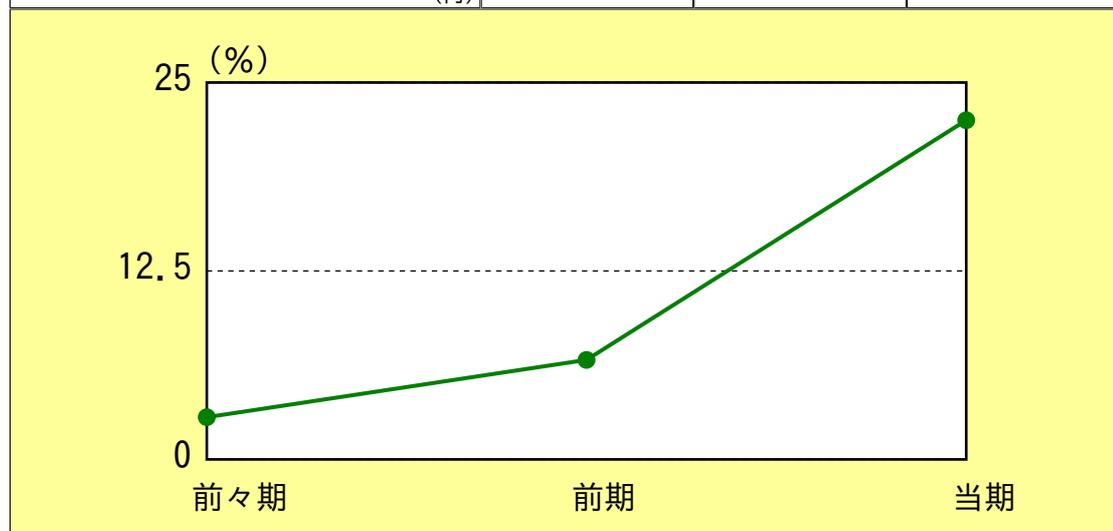
- 良：利益額の割に売上高が少ないか、売上原価が低いか、あるいは販売管理費が少ないかによる。
- 否：売上原価が高いか、又は販売管理費の支出が多いかによる。

5. 総資本対経常利益率

$$\frac{\text{経営利益}}{\text{総資本}} \times 100$$

経営資源である総資本を如何に効率的に活用して利益に結びつけているかを示す指標

		前々期	前期	当期
総資本対経常利益率 (%)		2.8	6.6	22.5
対平均 (%)	0.8	↑	↑	↑
経営利益 (円)		717	1,851	21,141
総資本 (円)		25,540	27,964	93,750



👉 ポイント

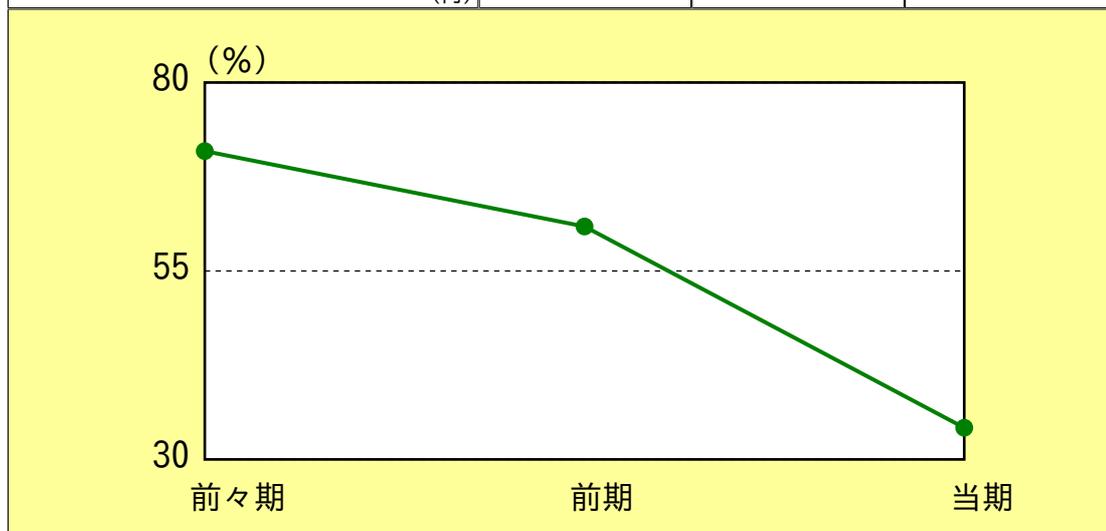
良：総資本の額が小さいか、経常利益が多いかによる。
 否：総資本の額が大きいか、経常利益が少ないかによる

7. 固定長期適合率

$$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{長期借入金}} \times 100$$

固定資産が安定した資金の源泉によって賄われているかどうかを判断する指標

		前々期	前期	当期
固定長期適合率 (%)		70.9	60.9	34.2
対平均 (%)	103.2	↑	↑	↑
固定資産 (円)		10,006	9,687	12,655
自己資本+長期借入金 (円)		14,104	15,885	36,903



👉 ポイント

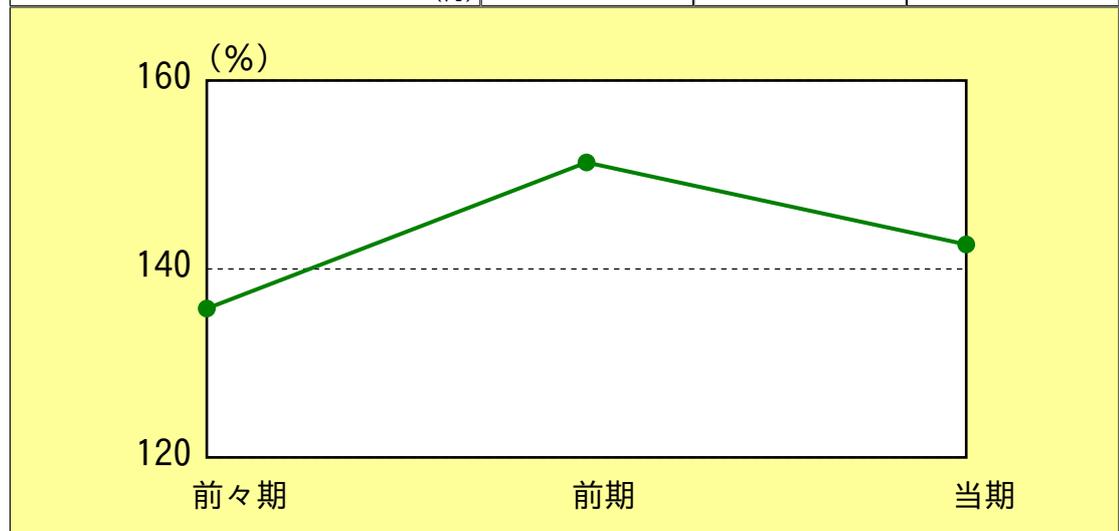
- 良：期末における長期資本（自己資本+長期借入金）が大きい、固定資産が少ないかによる。
- 否：期末における長期資本が少ない、固定資産が大きいかによる。

8. 流動比率

$$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

流動負債(一年以内に返済)を流動資産(短期間で換金可能な資産)がどの程度カバーしているかを示す比率

		前々期	前期	当期
流動比率 (%)		135.8	151.3	142.6
対平均 (%)	63.0	↑	↑	↑
流動資産 (円)		15,533	18,277	81,094
流動負債 (円)		11,435	12,078	56,846



👉 ポイント

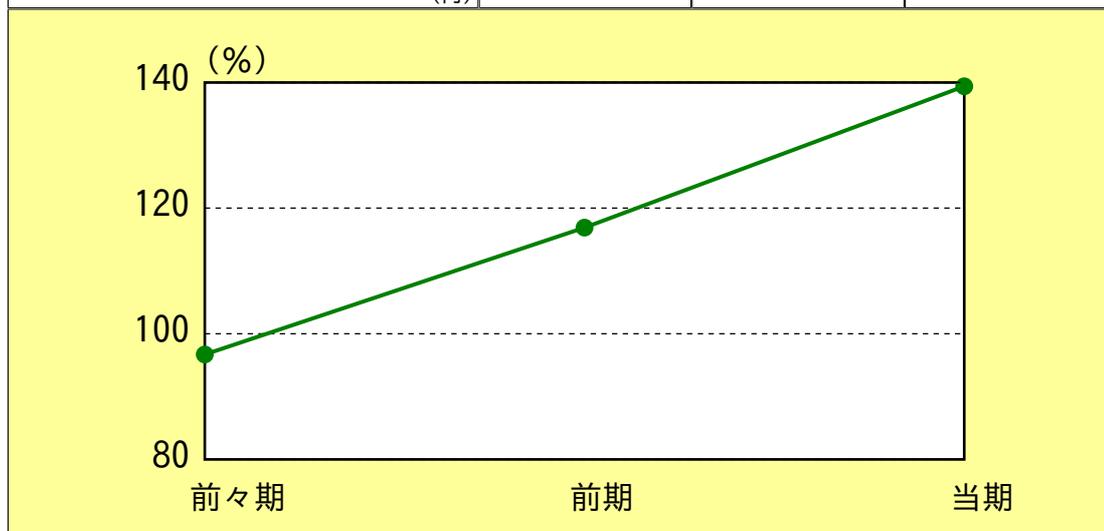
- 良：期末における流動負債（支払手形・買掛金・短期借入金）などの在庫が少ないか、流動資産（期末預金、受取手形、売掛金、商品など）の在庫が多いかによる。
- 否：流動負債の在高が多いか、又は流動資産が少ないかによる。

9. 当座比率

$$\frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

流動資産の中でも換金性の高い当座資産でそれだけ流動負債をカバーできるかを示す指標

		前々期	前期	当期
当座比率 (%)		96.7	116.9	139.4
対平均 (%)	37.9	↑	↑	↑
当座資産 (円)		11,058	14,131	79,278
流動負債 (円)		11,435	12,078	56,846



👉 ポイント

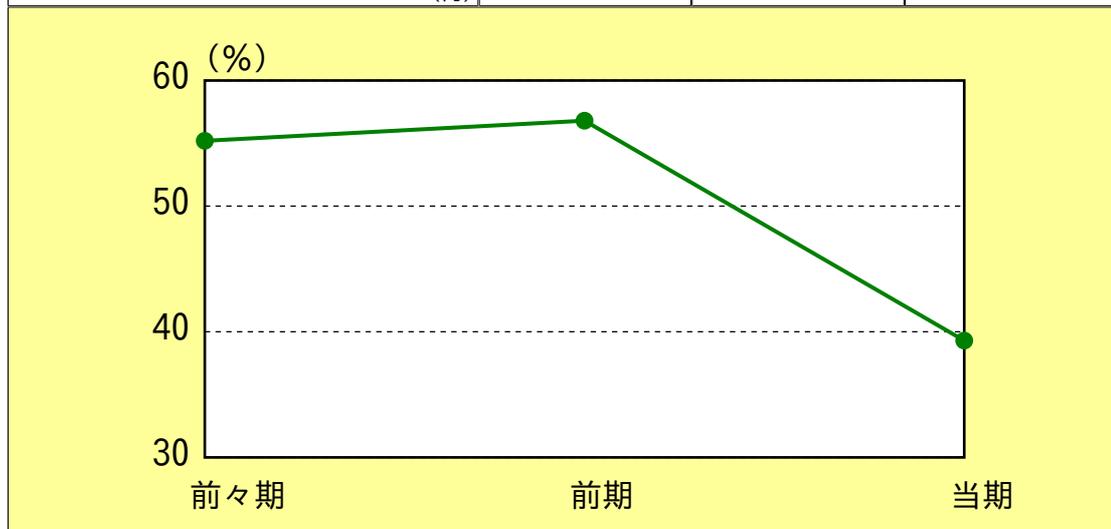
- 良：期末における流動負債の在高が少ないか、当座資産（流動資産から棚卸資産を控除した額）の在高が多かによる。
- 否：期末における流動負債の在高が多いか、又は当座資産が少ないかによる。

10. 総資本対自己資本比率

$$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資産}} \times 100$$

返済義務のある他人資本も合わせた総資本にしめる自己資本の割合を示す、安全性を判断する指標

		前々期	前期	当期
総資本対自己資本比率 (%)		55.2	56.8	39.3
対平均 (%)	1.4	↑	↑	↑
自己資本 (円)		14,104	15,885	36,903
総資産 (円)		25,540	27,964	93,750



👉 ポイント

良：期末における総資本額が少ないか、自己資本額が多いかによる。

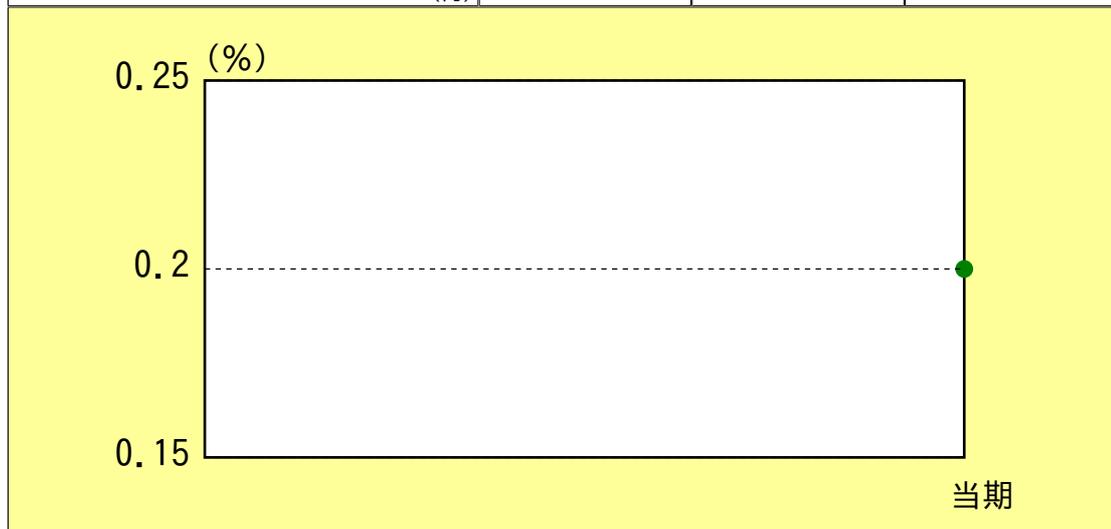
否：総資本額が多いか自己資本額が少ないかによる。

11. 売上高対支払利息比率

$$\frac{\text{支払利息} + \text{割引料} - \text{受取利息}}{\text{純売上高}} \times 100$$

売上高と実質金利の負担額との割合で、借入金が過大か否かを確認する指標

		前々期	前期	当期
売上高対支払利息比率 (%)				0.2
対平均 (%)	0.8			↑
支払利息 + 割引料 - 受取利息 (円)		-1		363
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205



👉 ポイント

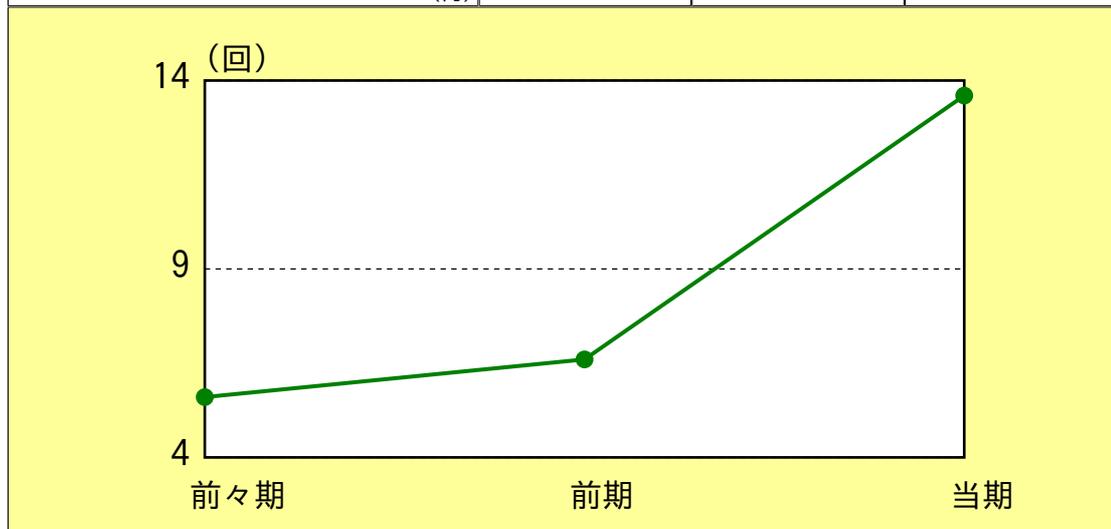
- 良：売上高が大きい、支払利息割引料が少ない、受取利息が多いによる。
- 否：売上高が少ない、支払利息割引料が多い、受取利息が少ないによる。

12. 固定資産回転率

$$\frac{\text{純売上高}}{\text{固定資産}}$$

固定資産がしっかり売上高につながって有効活用されているかどうかを判断する指標

		前々期	前期	当期
固定資産回転率 (回)		5.6	6.6	13.6
対平均 (回)	2.5	↑	↑	↑
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205
固定資産 (円)		10,006	9,687	12,655



👉 ポイント

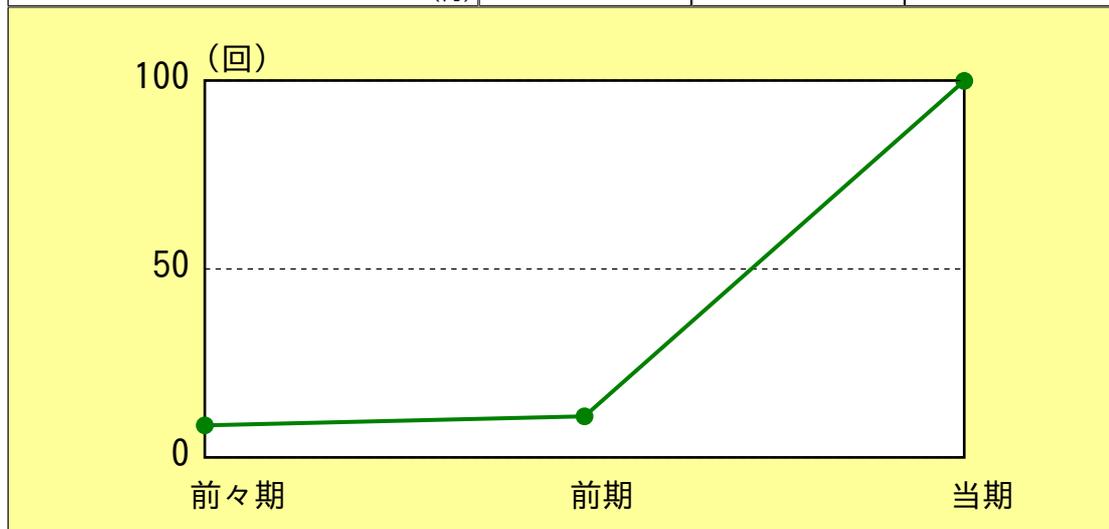
- 良：固定資産が少ないか、売上高が多いかによる。
- 否：固定資産が大きいか、売上高が少ないかによる。

13. 受取勘定回転率

$$\frac{\text{純売上高}}{\text{受取手形} + \text{売掛金} + \text{工事未収入金}}$$

売掛金・受取手形が現金・預金に変化する速度を意味し、売上債権の回収効率を検討する指標

		前々期	前期	当期
受取勘定回転率 (回)		8.5	10.9	99.9
対平均 (回)	40.5	↑	↑	↓
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205
受取手形+売掛金+工事未収入金 (円)		6,572	5,870	1,722



👉 ポイント

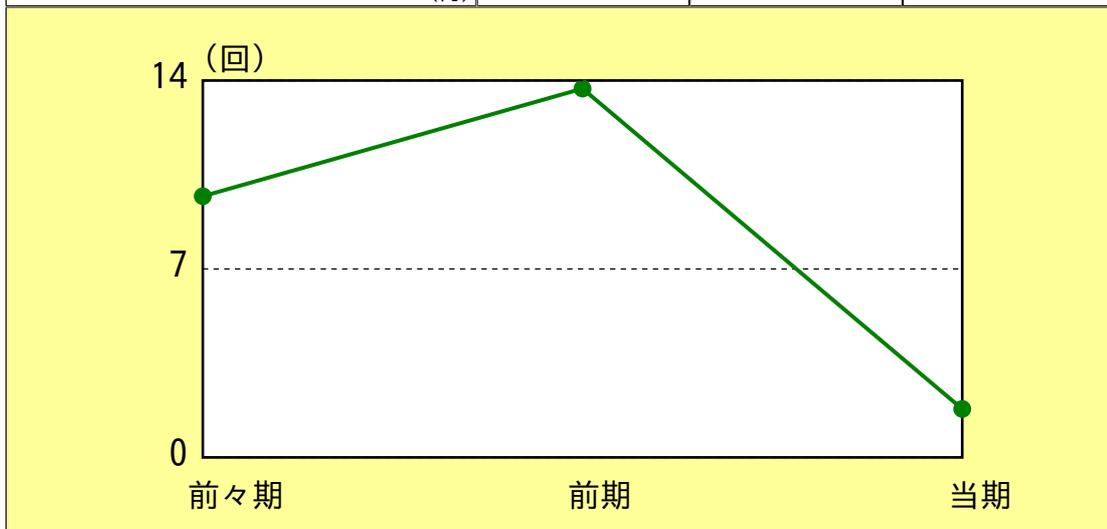
- 良：受取勘定（期末の受取手形、売掛金の在高）が小さいか、売上高が多いかによる。
- 否：受取勘定が多いか、売上高が少ないかによる。

14. 支払勘定回転率

$$\frac{\text{(当期仕入高+外注費)}}{\text{支払手形+買掛金+工事未払金}}$$

買掛金・支払手形が現金・預金に変化する速度を意味し、受取勘定回転率との関係で安全性を判断する指標

		前々期	前期	当期
支払勘定回転率 (回)		9.7	13.7	1.8
対平均 (回)	23.5	↓	↓	↓
(当期仕入高+外注費) (円)		44,020	50,956	95,277
支払手形+買掛金+工事未払金 (円)		4,536	3,702	50,184



👉 ポイント

良：支払勘定（支払手形、買掛金等）が少ないか、仕入高が多いかによる。

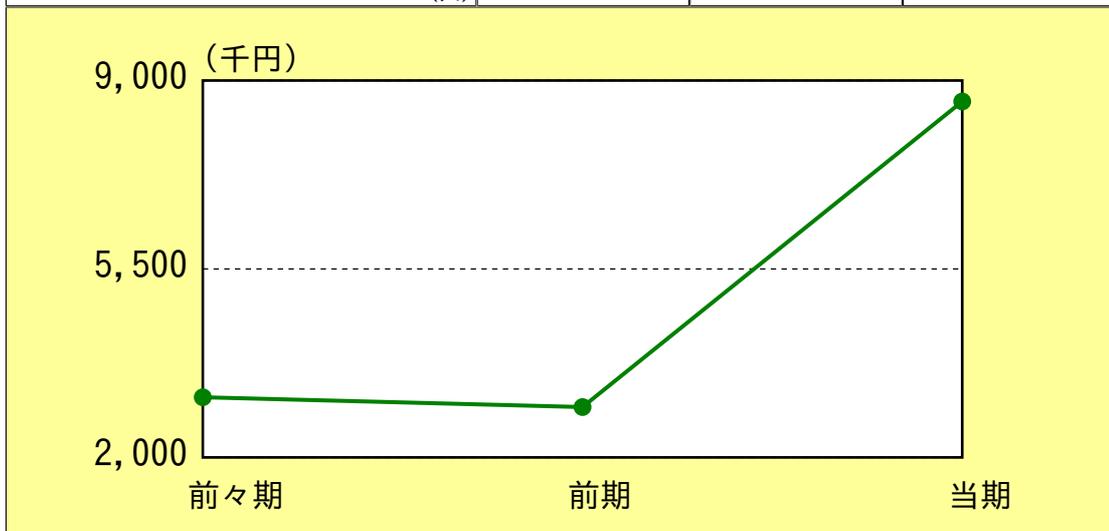
否：支払勘定が多いか、仕入高が少ないかによる。

15. 従業員一人当たり年間売上高

$$\frac{\text{純売上高}}{\text{従業員数}}$$

従業員一人一人が一年間で生み出した売上高を示す指標

		前々期	前期	当期
従業員一人当たり年間売上高 (千円)		3,117	2,934	8,610
対平均 (千円)	80,393	↓	↓	↓
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205
従業員数 (人)		18	22	20



👉 ポイント

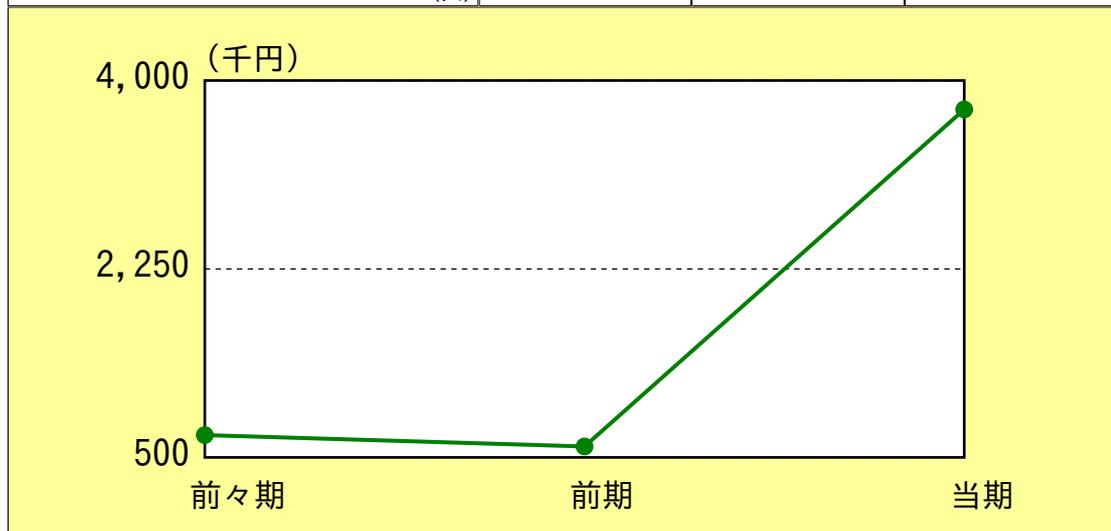
- 良：売上高が多いか、従業員が少ないかによる。
- 否：売上高が少ないか、従業員が多いかによる。

16. 従業員一人当たり年間加工高

$$\frac{\text{加工高}}{\text{従業員数}}$$

従業員一人一人が一年間で生み出した加工高（付加価値）を示す指標

		前々期	前期	当期
従業員一人当たり年間加工高 (千円)		707	601	3,731
対平均 (千円)	6,181	↓	↓	↓
加工高 (円)		12,741	13,235	74,622
従業員数 (人)		18	22	20



👉 ポイント

良：加工高（付加価値高）が多いか、従業員が少ないかによる。

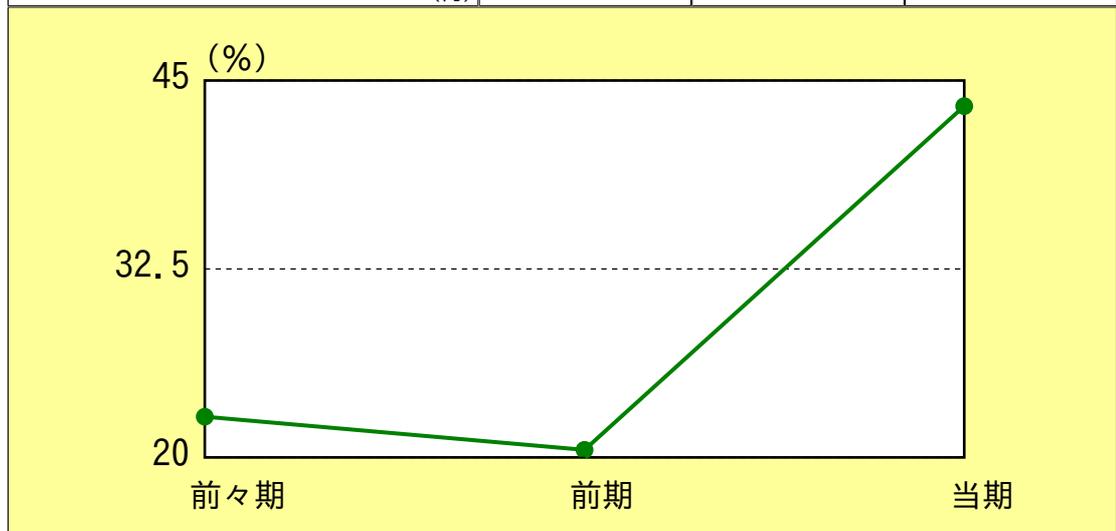
否：加工高が少ないか、従業員が多いかによる。

17. 加工高比率

$$\frac{\text{加工高}}{\text{純売上高}} \times 100$$

売上高に対する付加価値額の割合を示す指標で、この比率が高いほど内製加工率が高いことを表している

		前々期	前期	当期
加工高比率 (%)		22.7	20.5	43.3
対平均 (%)	48.6	↓	↓	↓
加工高 (円)		12,741	13,235	74,622
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205



👉 ポイント

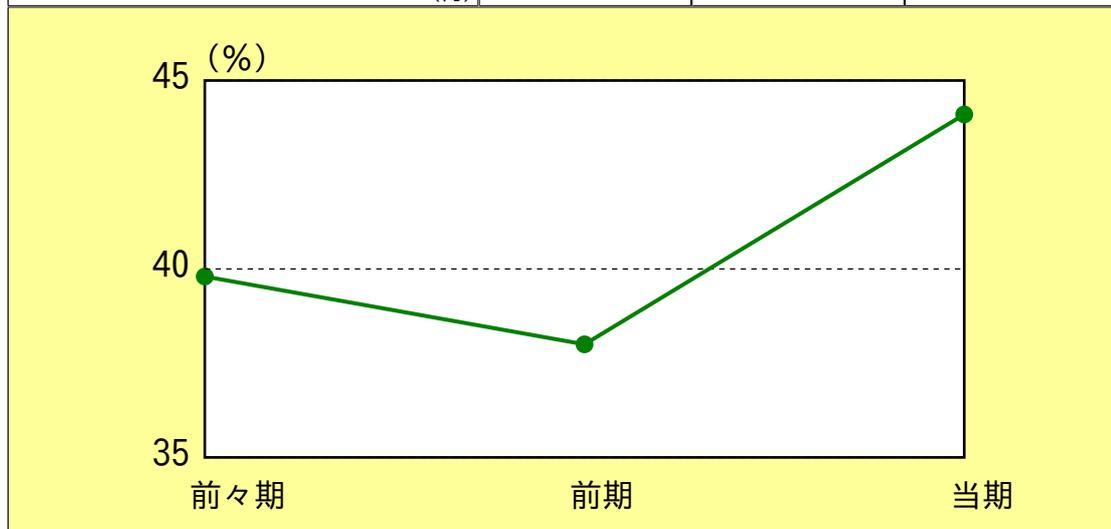
- 良：加工高が多いか、売上高が少ないかによる。
- 否：加工高が少ないか、売上高が多いかによる。

18. 加工高対人件費比率

$$\frac{\text{人件費}}{\text{加工高}} \times 100$$

労働分配率ともいい、付加価値に占める人件費の割合の程度を示す指標

		前々期	前期	当期
加工高対人件費比率 (%)		39.8	38.0	44.1
対平均 (%)	72.0	↑	↑	↑
人件費 (円)		5,077	5,036	32,981
加工高 (円)		12,741	13,235	74,622



👉 ポイント

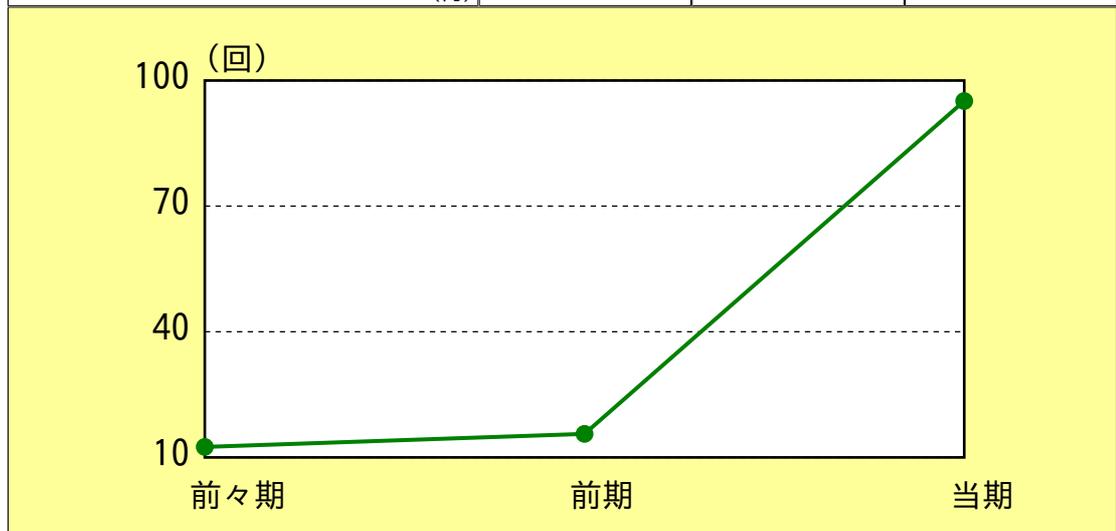
- 良：人件費が少ないか、加工高が多いかによる。
- 否：人件費が多いか、加工高が少ないかによる。

19. 棚卸資産回転率

$$\frac{\text{純売上高}}{\text{商品・製品} + \text{半製品} + \text{原材料}}$$

会社が在庫を、どの程度のレベルまで効率的に減少させているかを示す比率

		前々期	前期	当期
棚卸資産回転率 (回)		12.5	15.6	95.1
対平均 (回)	0.7	↓	↓	↓
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205
商品・製品+半製品+原材料 (円)		4,470	4,114	1,808



👉 ポイント

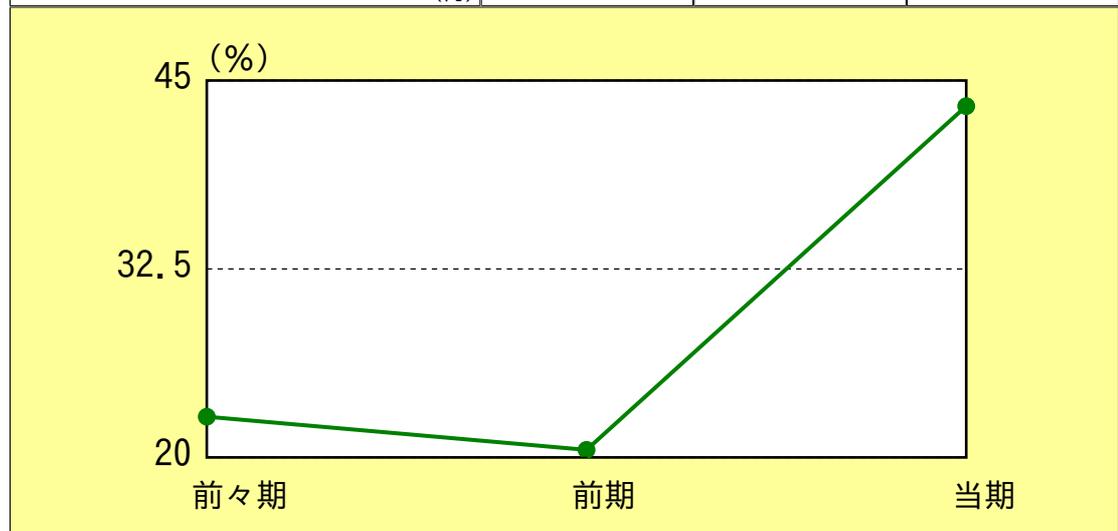
良：期末商品、製品が少ないか、売上高が多いかによる。
 否：売上高が少ないか、商品、製品の手持高が多いかによる。

20. 売上高対総利益率

$$\frac{\text{売上総利益}}{\text{純売上高}} \times 100$$

売上高総利益率とは売上高と売上総利益の比率で、粗利率や荒利率ともいい総合的な収益力を示す指標

		前々期	前期	当期
売上高対総利益率 (%)		22.7	20.5	43.3
対平均 (%)	65.1	↓	↓	↓
売上総利益 (円)		12,741	13,235	74,622
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205



👉 ポイント

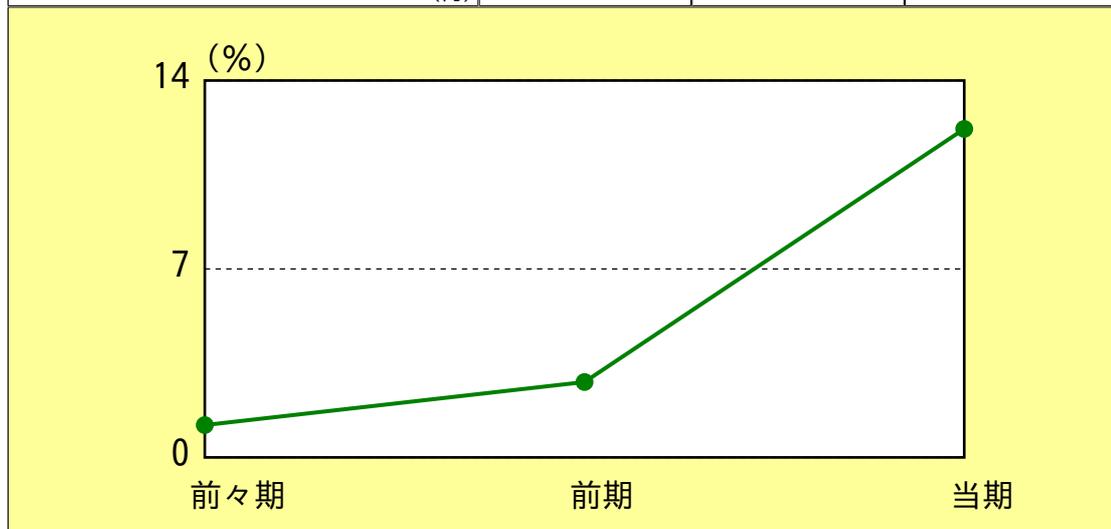
- 良：売上原価が売上高の割合に比べて低いことによる。
- 否：売上原価が高いか、売価が低いことによる。

21. 売上高対経常利益率

$$\frac{\text{経常利益}}{\text{純売上高}} \times 100$$

営業活動から生じた利益に営業外の金融収支を加えた会社の通常の状態であげた利益の売上高に対する比率

		前々期	前期	当期
売上高対経常利益率 (%)		1.2	2.8	12.2
対平均 (%)	0.4	↑	↑	↑
経常利益 (円)		717	1,851	21,141
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205



👉 ポイント

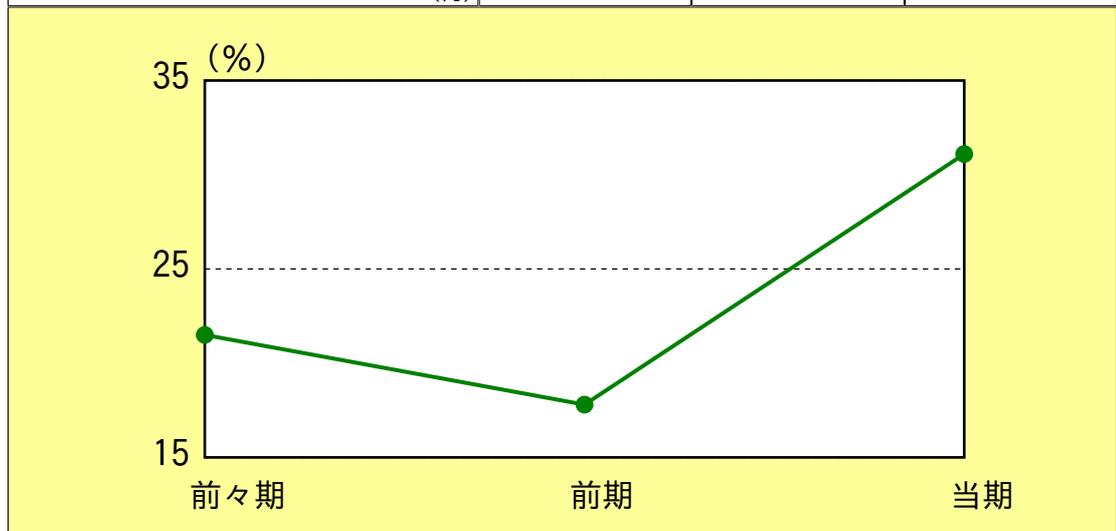
- 良：営業利益と営業外利益が大きいことによる。
- 否：営業利益が少なく、営業外の支出が多いことによる。

22. 販売・管理費比率

$$\frac{\text{販売・管理} + \text{支払利息} \cdot \text{割引料}}{\text{純売上高}} \times 100$$

売上高に対して販売業務及び管理業務の効率性を考察する指標

		前々期	前期	当期
販売・管理費比率 (%)		21.5	17.8	31.1
対平均 (%)	64.6	↑	↑	↑
販売・管理 + 支払利息・割引料 (円)		12,104	11,490	53,589
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205



👉 ポイント

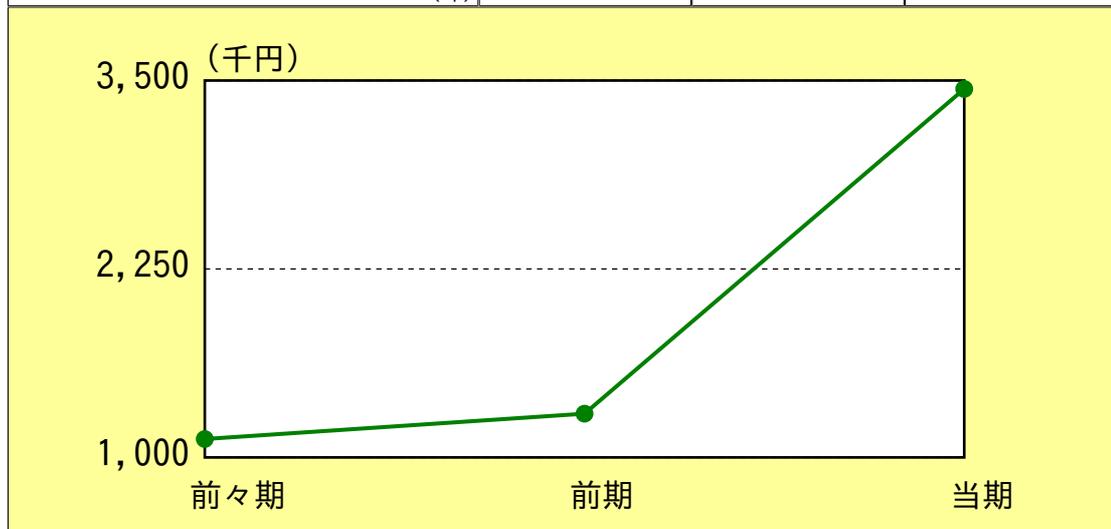
- 良：営業費が少ないか、売上高が多いかによる。
- 否：売上高の割合に営業経費が多くかかっていることによる。

23. 売り場3.3㎡当り売上高

$$\frac{\text{純売上高}}{\text{売場面積}}$$

一平米あたりどれだけの売上を上げたかを示し、売り場の効率性を示す指標

		前々期	前期	当期
売り場3.3㎡当り売上高 (千円)		1,122	1,290	3,444
対平均 (千円)		↑	↑	↑
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205
売場面積 (坪)		50	50	50



👉 ポイント

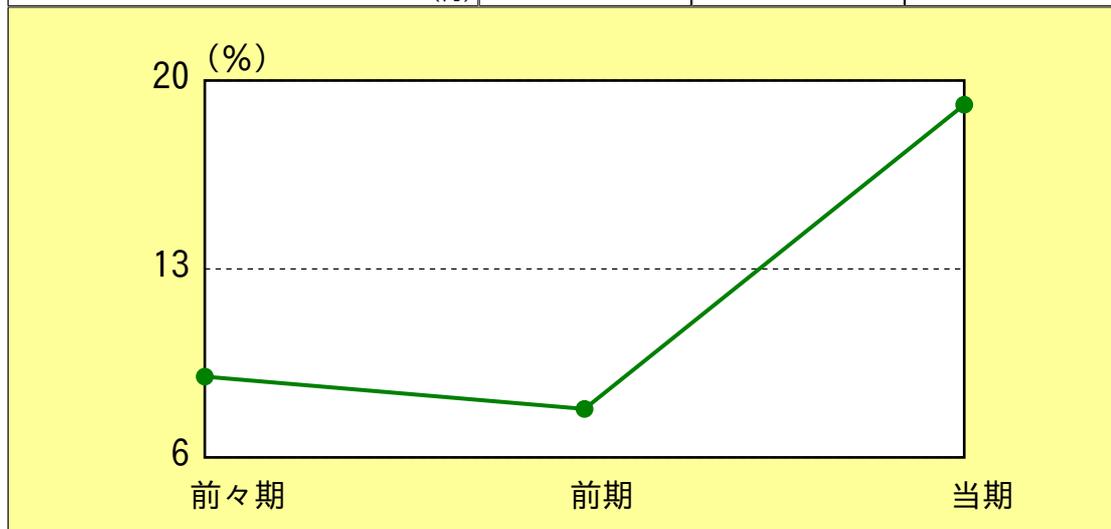
- 良：売上高が多いか、売場面積が狭いかによる。
- 否：売上高が少ないか、売場面積が広いかにによる。

24. 売上高対人件費比率

$$\frac{\text{人件費}}{\text{純売上高}} \times 100$$

売上に占める人件費の割合をみるもので、従業員の生産性を示す指標

		前々期	前期	当期
売上高対人件費比率 (%)		9.0	7.8	19.1
対平均 (%)		↓	↓	↓
人件費 (円)		5,077	5,036	32,981
純売上高 (円)		56,113	64,548	172,205



👉 ポイント

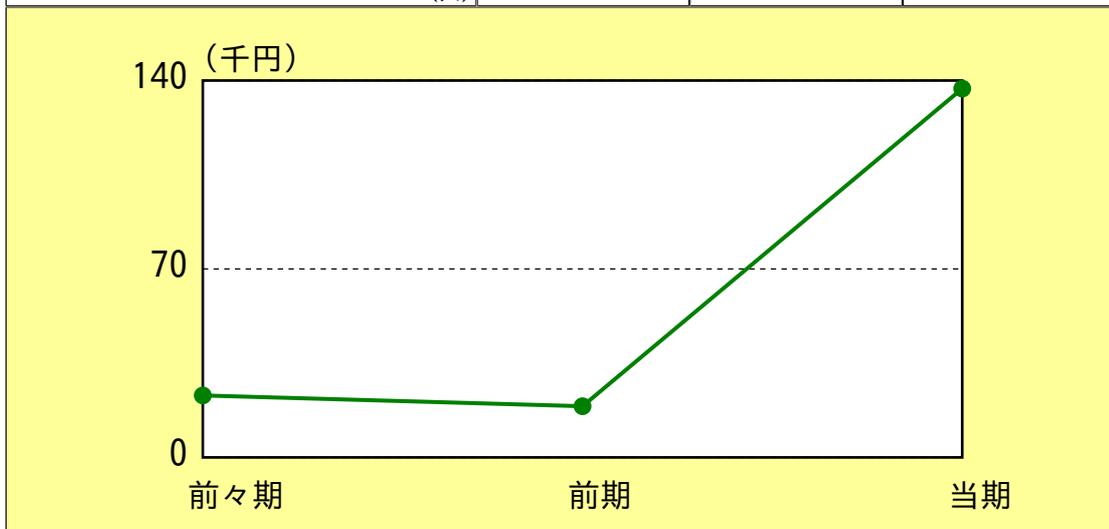
良：売上高が多いか、人件費が少ないかによる。
 否：売上高が少ないか、人件費が多いかによる。

25. 従業員一人当り月平均人件費

$$\frac{\text{人件費}}{\text{従業員数}} \div \text{月数}$$

従業員の平均人件費を示す

		前々期	前期	当期
従業員一人当り月平均人件費 (千円)		23	19	137
対平均 (千円)	4,305	—	—	—
人件費 (円)		5,077	5,036	32,981
従業員数 (人)		18	22	20



👉 ポイント

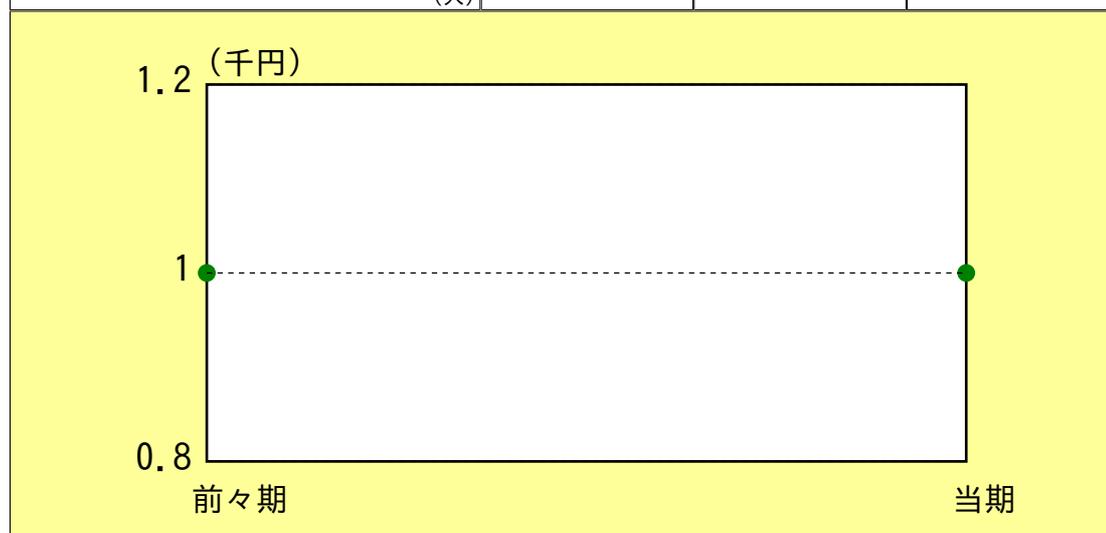
この数値の多少によってかならずしも良否の判定はできないが15または16を相対的に判断して比較的に高い方が経営の成長性、雇用の安定性があると思われる。

27. 従業員一人当り機械装備額

$$\frac{\text{設備資産}}{\text{従業員数}}$$

従業員一人当りにどのくらい機械装備を投資しているかを示す指標

		前々期	前期	当期
従業員一人当り機械装備額 (千円)		1		1
対平均 (千円)	156	—	—	—
設備資産 (円)		21	21	21
従業員数 (人)		18	22	20



👉 ポイント

良：設備資産が多いか、従業員が少ないかによる、省力化されている。

否：設備資産が少ないか、従業員が多いかによる。